



Vol.11
2月号

現場で大活躍！ クレーン事業部の重機 を紹介します！



執行役員部長
片山 正勝さん



オペレーター
上木 茂さん

現場で活躍する様々な重機。今回はクレーン事業部が扱うクローラークレーンとラフタークレーンを特集します。2つの重機にはどのような違いがあるのでしょうか？片山さんと上木さんにお話を伺いました！

クローラークレーン

Q1. どんな現場で活躍しているの？

主に建設現場で活躍しています。2019年11月当時は、タワークレーン仕様による建設も盛んでした。最近では東小中学校の新築現場でのPC工法による建方、防府では鉄骨の建方、周南ではRC工法によるマンションの建設をしています。(上木さん)

Q2. 重機の特徴は？

接地面積が広く接地圧が小さいため、地盤の柔らかい場所や荷を吊ったまま移動する作業に適しています。また、クローラークレーンは公道を自走することができないため、現場ごとに機械の組み立て、解体が必要です。そのため、それらの部材を運搬するためのトラックやトレーラーなども手配しなければなりません。そのため、工期が長い現場に有効です。(上木さん)

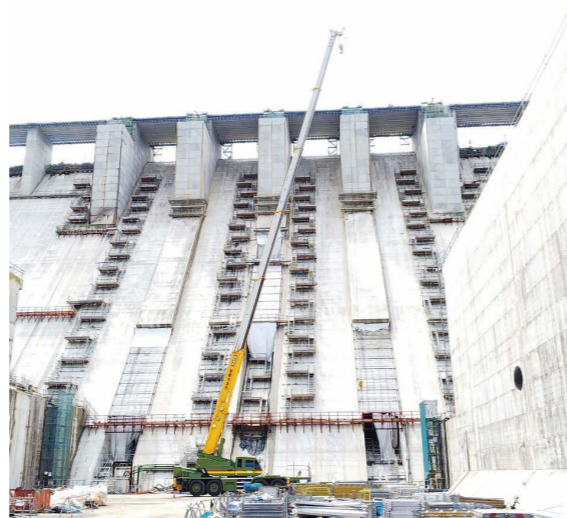
Q3. 営業時のポイントは？

作業環境に合わせた機種、仕様、ブーム構成を選定し、お客様のニーズに合わせた揚重作業を提供しています。(片山さん)

Q4. お客様からの反応は？

長期作業であることから、オペレーターが評価されることが多いです。また、お客様からの表彰を頂くこともあります。(片山さん)

ラフタークレーン



Q1. どんな現場で活躍しているの？

13トン、25トン、50トン、65トン、70トン、80トンのクレーンがあります。13トンのクレーンは木造建方や建築資材の荷揚げ、看板、据え付け、植木吊りなどに使い、25トンのクレーンは鉄骨建方、設備機器、重機の組み立てなどが主な用途となります。また、50トン以上のクレーンは、重量物、高層階への荷揚げなどにも使用することができます。(上木さん)

Q2. 重機の特徴は？

一つの操作室で走行とクレーン作業ができ、現場到着後もアウトリガーとブームを伸ばせばすぐに作業ができます。アウトリガーとブームはすぐに収納することができるので、別の現場への移動もスムーズです。また、四輪駆動、四輪操縦システムを装備しているため、悪路や狭い現場への搬入も可能です。(上木さん)

Q3. 営業時のポイントは？

現地で作業環境を確認したうえで、機種選定などの提案を行います。(片山さん)



Q4. お客様からの反応は？

クローラークレーン同様にオペレーターが評価されることが多いです。また、ラフター、クローラ問わず、現場での評価が次の受注につながる事が多く、「作業品質こそが競争の原点」と認識しています。(片山さん)



NEWS!

クレーン事業部 優秀安全運転事業所表彰「銀賞」獲得！

勤務時間とともに、プライベートを含めて運転した際の人身事故率と交通違反率によって評価される優秀安全運転事業所表彰で、前年度「銀賞」受賞の柳井支店に続き、令和元年度はガンシンのクレーン事業部が「銀賞」の評価を受けました。県内にある92の事業所を対象としており、交通違反件数が全対象者数の4%以下、軽傷人身事故が0.6%以下と、いずれも定めた銀賞の評価基準をクリアしました。



片山正勝事業部長より

従業員みんなが交通安全の意識を高めた成果です。年1回の交通安全講習会や月1回の安全会議などを開催し、これからも特に重大事故を起こさないよう声をかけていきたいと思っています。

